

2016年4月19日

厚生労働大臣 塩崎恭久 殿

日本製薬工業協会
会長 多田正世

G7伊勢・志摩サミットの保健アジェンダに対する要望

前回のG7会合である2015年5月のエルマウ・サミット及び10月のベルリン保健大臣会合において、エボラ出血熱危機、AMR問題、及び顧みられない熱帯病（NTDs¹）が保健分野の重要かつ緊急な課題として取り上げられ、これらの感染症対策においてG7のコミットメントとリーダーシップが表明されたことは、その後の展開から顧みて極めて重要なステップであったと理解しています。

一方、国連の「持続可能な開発目標」SDGs²では、感染症への取り組みとして2030年までに三大感染症、NTDsを制圧することが掲げられています。SDGs採択後初めてのサミットとなる伊勢志摩サミットは、その長期目標の達成を確実なものとするべく、エルマウ・サミットに引き続き感染症対策を重要課題として取り上げ、一層議論を深めていただくことが肝要と考えております。

日本製薬工業協会の会員企業は研究開発型製薬企業として、グローバルヘルス課題において、革新的医薬品の継続的な創出とそのアクセス向上を通じて世界の人々の健康と福祉の向上に貢献することが使命であると認識しており、これまでグローバルヘルス技術振興基金（GHIT）への参画、三大感染症及びNTDsに対する創薬並びに医薬品・ワクチンの供給等に努めて参りました。今後も我々の新薬開発に関わる技術力や経験を活かし、G7各国政府、国際機関等との連携をより一層強化して課題解決に努めて参りたいと考えています。伊勢志摩サミット及び神戸保健大臣会合において、日本政府がG7各国及び世界をリードしていくにあたり、我々がグローバルヘルス分野においてその役割を着実に果たしていけるよう、研究開発や国際連携を促す仕組みの構築及び強化等について、以下の課題をご議論いただくようお願い申し上げます。

¹ Neglected Tropical Disease

² 2015年に終了した国連のミレニアム開発目標(MDGs)に続く、環境の持続可能性確保に重点を置いて検討されている国際目標。国連に加盟するすべての国は、2015年から2030年までに、貧困や飢餓、エネルギー、気候変動、平和的社会など、持続可能な開発のための諸目標を達成すべく力を尽くすこととしている

感染症対策における国際連携と新薬の研究開発促進の重要性

パンデミック、AMR、NTDsに対する治療薬やワクチンは市場性や予見性が低く、個々の企業のみでは研究開発・事業化の取り組みが難しい領域です。研究開発や供給における産官学の国際連携の促進と効率化とともに、財源面での公的支援の拡大が必要となります。特に継続的な新薬開発を促進するためには、G7 各国における研究開発促進策（開発着手の動機付けや採算予見性を高める仕組みの導入・強化、研究開発の効率化や薬事承認プロセスのハーモナイゼーション等）を継続的に議論・推進していただきたい。

これらの基盤構築に加え、以下の各々の領域における課題を、伊勢志摩サミット、神戸保健大臣会合の重要課題としてご認識いただき、議論をお願いしたい。

1. 「パンデミック」における医薬品供給の仕組みの整備

国際的に脅威となる感染症が発生した際には、未承認薬あるいは開発品の供給が重要な対応策となることが想定され、その供給等において製薬企業の果たす役割は大きいと認識しています。その際の製薬企業の責任範囲の明確化等の規制面での整備、積極的な貢献を志向する企業に過度な財務負担がかからず、かつ治療薬やワクチンを迅速に供給できる仕組みを、国際機関との連携の下、G7 各国において早期に構築していただきたい。

2. 国際的な取り組みによる「AMR 問題」の克服

G7 のリーダーシップのもと、One Health approach³ の成果を継続的に検証し、特に、AMR サーベイランスシステムの構築・強化および抗微生物製剤の適正使用の推進、即ち antimicrobial stewardship⁴ の早期実現を推進していただきたい。加えて、長期的な感染症対策として極めて有効である予防接種の世界規模での取り組みを、G7 に率先して主導していただきたい。

3. 「NTDs 制圧」に向けた包括的な取り組みの推進

SDGs の目標達成に向けて我々が開発し提供する医薬品が確実に貢献できるよう、G7 と WHO のリーダーシップのもと、制圧目標疾患の優先順位付けとともに、蔓延国における能力開発（一般国民への疾患啓発、規制当局担当官や医療従事者の人材育成、治験実施能力や流通システムの強化など）等を強く推進していただきたい。

以 上

³ 鳥インフルエンザなどの人獣共通感染症対策において、人間と動物の健康を一連の課題として検討する手法

⁴ 感染症を専門とする医師、薬剤師、臨床検査技師、看護師が医療チームを構成し、最大限の治療効果と最小限の副作用を目指した抗菌薬療法の実践を支援するシステム